

インドのITサービス最大手のタタ・コンサルタンシー・サービシズ（TCS）と三菱商事の合併会社である、日本TCS（東京都港区、アムル・ラクシユミナラヤナン社長、03・6736・7000）は、システム障害を人工知能（AI）で解決する「IGNIO（イグニオ）」の日本での展開を今春から本格化する。イグニオはコグニティブ・オートメーション・ソリューションで、アプリケーション・ソリューションやITインフラに関するAIを搭載。顧客のIT運用情報を自動的に収集して傾向分析。障害発生時に自動で根本原因を特定し、自律的に解決することができる。

イグニオはサーバーやアプリケーション、ビジネス機能

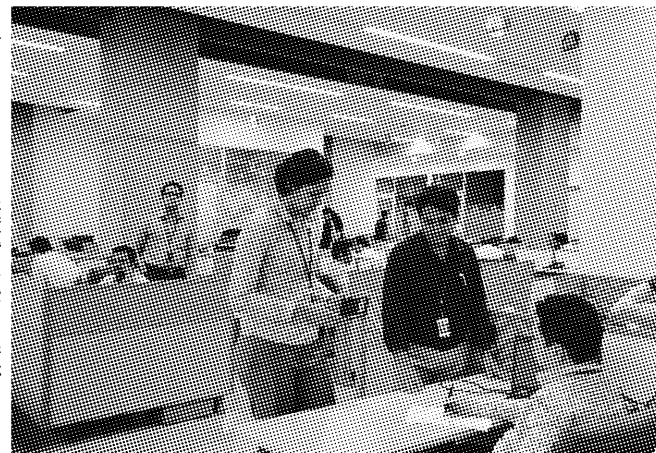


日本市場で本格展開

②

日本TCS

コグニティブ・オートメーション・ソリューション



を含めてシステム環境を認知する「ブルー・プリント」というAI機能を備えている。システム障害発生時には、このブルー・プリントを通じて根本原因を探り、自律的に障害がどこへ波及するかを思考し、解決を提案できる。こうしたAI機能は、TCSが蓄積してきたデータに基づくノウハウが反映されている。企業などでシステム障害が発生すると、複数の部門で原因の特定や解決策を検討し、解決までに多大なリソースが費やされる。相生公成イグニオチームリーダーは「人間が

インド・フネに日本専用デリバリーセンターを設置するなど、日本でのイグニオの展開を加速

▲やることをイグニオが巻き取る。人間の役割を、クリエイティブな作業に集中することができる」と話す。

イグニオは2015年に開発され、欧米を中心に50-60社の採用実

績がある。日本市場では主に、金融や物流、ITなどにシステムを安定的に運用する必要がある業界や企業向けに拡販する。相生チームリーダーは「すでに30-40社が興味を示している。数年で100社以上の導入を目指している」と話す。

（高屋優理）